

—奨学生近況—

☆ **卒業おめでとう!** :3月20日にスペンサーが、トリニティカレッジハイスクールを、25日にはスサンナ、メリアン、スヌーリア、ドリ、ディノの5人がメリマウントハイスクールを無事卒業。25日の式典には当会からも会員の笠井さんと山崎が参加(事務局・技術担当ボランティアスタッフの山崎氏も同行)しました。全員カレッジ進学希望です。今後とも応援よろしくお願ひいたします。



メリマウントハイスクール卒業式(証書を手にするドリ)

☆ **ピラーン族の14名の6年生・小学校卒業試験に挑戦:**1月中旬に実施されたNEAT(全国統一卒業試験)に、ピラーンの6年生14名が受験。ハイスクール進学資格認定テストも兼ねるこの試験ですが、残念ながら1名が不合格との報告を受けました。合格生徒の大部分はハイスクール進学を希望しています。出来るだけ応援したいと考えています。

☆ **スララに女子寮完成間近:** これまで奨学生14名はノートルダム・スララハイスクール校門前のアパート2部屋に間借りしていましたが、ゆっくり勉強できる環境をと、学校側がキャンパス内の一角を提供。6月の新学期開始に向けて女子寮を建設中です。



左から、ノーマ校長、テオ神父、会計のカティ(CMB事務所で)

< 3年間の教師給与補填事業が終了しました >

法定最低賃金レベルの報酬で、アトゥモロックとラムブソンの二つの分校の認可申請などに奔走した校長のノーマ先生から、新潟県国際交流協会へ3年間の支援に対する感謝の手紙が届きました。彼女自身は、1年目は手術費の支払いに、2年目は家の修繕費に、最後はアトゥモロックへの途上、落馬して打った頭のCTスキャン費支払いに当てたとのこと。幸いこの検査結果は良好でしたが、彼女を含めて教師たちの奮闘に対して、今後とも何らかの形で力になればと考えています。

ピラーンの女性達の伝統的出産

ピラーンの伝統を守る妊婦は陣痛が始まってもそのことを誰にも伝えず、痛みの合間に芋を掘り、水を汲みに谷川と家を往復する。いよいよ陣痛の間隔が短くなって痛みが耐え難くなくても、声を上げることはもちろん息さえ潜め、出産を夫を初めとする周囲に気づかれないようにする。彼女が始めて横に寝ている夫を起こすのは、産み落とした直後である。何も知らずに横で寝ている夫が、暗闇の中でうっかり生れたての赤ん坊を踏み潰さないために。明かりを点さず、声を立てず一人で耐えて産むことが美德とされ、うめき声を上げようものなら、夫に恥をかかせたと後でひどく叱られる。出産中のタブーとしては、竹製の床に寝る時は、竹の方向に沿って横たわるべし、衣類を家の中につるすな、誰も呼ぶな、などがある。これを守れば産みの苦しみは和らげられ早く済む。

生れた子どものために産着を予め用意すると子どもは死ぬというタブーもある。したがって生れた子どもは1枚の布に包まれ、ぬれると裏返しにするだけ。いつも湿気の中で夜の冷気にのなかで風邪をひいて命を落とす新生児も多い。

(CMB機関紙「GONG 2月号」・元CMB小学校長エドナさんの記事一部抄訳)

以上の風習にも見るように、ピラーン族などの先住民族の間では、まだまだ女性の地位が低く平均寿命も男性より短いのが実状です。

昨年度総会で女性自立支援を活動に含むことを決めた当会は、本年度、伝統工芸品販路拡大事業を実施することになりました。今回の対象はチボリ族女性の組合COWHEDですが、これがモデルケースとなり、近い将来には、類似した文化を持つピラーン族女性の組織化、伝統工芸振興が進むことを期待しています。

この「女性自立のための伝統工芸ティナラク織推進プロジェクト」に対して、3月中旬にはFIDRから約94万円の助成が決定しました。販売促進のためのカタログ作成・通信に必要なファックス、パソコン機器購入、マニラ麻織物(ティナラク織)、縫製技術向上研修、始業資金貸付け等からなる事業です。当会の女性自立基金8万円も使用しますが、あと10万円ほど自己資金が必要です。事業へのアドバイスを含めて皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

なお、本事業担当は、事務局非常勤スタッフ森田奈美さんの予定です。